

64 KATAGAMI (型紙) (2021年6月10日)

フランスに来て、美術館に KATAGAMI が展示されているのを見て驚きました。型紙は、染色に使う道具であって、展示する美術品だとは思っていなかったからです。

型紙とは、着物の生地に柄や文様を染める工程で用いられる道具です。型紙は、柿渋（渋柿の未熟な果実を压榨・発酵して作られる抽出液で、防水効果がある。）を使って美濃和紙を加工した紙（型地紙）に、職人が独特の彫刻刀で多彩な図柄を彫ったものです。細かな模様を彫るのには、職人の熟練の技を必要とします。

型を使って色を染めるときは、模様を掘った型紙の上に糊を置き、糊が乾いた後に型紙を外して糊のない部分に色を挿していきます。色挿しが終わって糊を落とすと糊が置かれた場所は白く残り、型紙の模様の部分だけが染色されます。模様の題材は、草花、水の流れ、小鳥や魚などの身近にある自然で、反復模様となっています。

型紙は、一定の回数を使用すると新しい型紙と交換されますので、古い型紙は廃棄されました。19世紀後半に日本にいたヨーロッパ人が、使われなくなった型紙を見つけて持ち帰り、当時の装飾デザイナーが、型紙の模様を工芸品に取り入れました。ヨーロッパ人は型紙の使い方が分からなかったために、模様に注目したのかもしれない。型紙の模様から生まれた新しいデザインは、アール・ヌーボーを生むきっかけになりました。日本では廃棄されていた型紙が、ヨーロッパ人のおかげで新たな芸術を生む道具となったのは興味深いことです。



musée du quai Branly/ケ・ブランリ美術館



musée des Arts Décoratifs/装飾芸術美術館



Un peigne influencé par un motif du katagami 型紙のデザインから影響を受けた櫛

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

フランスに来る前は、型紙を使って染め上げられた布地の美しさしか注目していませんでしたが、フランスの美術館に展示された型紙を見たおかげで、型紙そのものの芸術性に気付かされました。